

行政報告

市議会9月定例会が9月2日に招集され、小畑市長が行政報告を行いました。その中から主なものの要旨をお知らせします。

雇用創出への取り組み

1 緊急雇用対策会議の設置
本年度に入ってから市内で企業倒産が相次いで発生していることは、看過できない大きな問題となっています。

職を失った151人中、139人が市内在住者で、このうち再就職されたかたは41人とどまり、90人以上の方々が求職活動をしています。

市では、7月25日に緊急雇用対策会議を設置し、ハローワーク大館と連携を取りながら雇用対策を進め、現在、様々な雇用の場の創出に向け、検討を重ねています。

2 地域の雇用状況

本年7月のハローワーク大館管内の有効求人倍率は0.62倍で前年同期に比べ0.06ポイント下回り、厳しい状態になりつつあると受け止めています。

また、来年3月に市内の高等学校を卒業予定の生徒の動向は、就職を希望している251人のうち、県内就職希望者が136人と過半数を占め、地元企業からの早期求人呼び掛けをしています。

3 企業誘致活動

7月30日に秋田県企業誘致推進協議会が主催する、秋田県・県内市町村と首都圏企業との懇談会が都内で開催され、県内の誘致企業のトップの方々との懇談し、業界動向や今後の事業展開などの情報交換を行ってきました。

翌31日には、首都圏在住の、大館市企業誘致協力員との情報交換会を開催し、首都圏の経済状況、企業動向などの情報を収集するとともに、率直な意見交換を行ってきました。

今後も、産業振興と雇用の拡大を図るため、企業誘致活動を積極的に推進します。

農作物の生育状況

6月14日の降ひょうで、中山・曲田地区の果樹に大きな被害を受けましたが、その他の農作物の生育はおおむね良好に推移しています。

水稲は、7月の好天で生育は順調。出穂盛期は8月5日と平年並みで、穂ぞろい、登熟も良好に推移しています。

7月の降水量が少なかつたことから、

カドミウム汚染防止対策としての潜水管理や病害虫防除の徹底を、農業指導センターやJAあきた北など関係機関とともに呼び掛けています。

なお、特に降ひょう被害の大きかった果樹農家の負担軽減と営農意欲の向上を図るため、大館市降ひょう被災農家支援対策事業を創設して、降ひょうがあった翌日から収穫期までに使用した農薬の費用に対して一定額を助成したいと考え、本定例会に補正予算案を提出しています。



市民サービスセンターの利用状況

5月7日の開設から約4カ月が経過し、この間、住民票などの発行が約2千通、市税等の収納が約8千万円、各種相談が約700件など、延べ7千人に利用されています。

8月からは土曜日も開所し、10時30分から17時まで業務を行っています。これまでのところ1日当たりの利用者は30人と、平日の3分の1程度の利用となっています。

大館市エコフェアの開催結果

7月5日、6日、マンモスフリーマーケットの協賛事業として大館市エコフェアを樹海ドームで初めて開催し、2日間で1万5千人が来場しました。

これには、市内13の企業が各社の製品やカタログ、パネルの展示などで環境への取り組みを紹介し、多くの方々から市内の環境関連産業への理解を深めていただきました。

今後も、循環型社会の形成に向けた取り組みや、環境と調和したまちづくりの重要性をPRしていきます。

十二所地区の保育事業の統廃合

十二所地区の葛原保育所と大滝児童館は、入園者の著しい減少に加え、施設の老朽化が問題となっていました。これまでに、地元住民や保護者と協議を重ね、質

ふれあいセンターやまびこ



やまびこの内部